

400年の歴史を誇る 伝統工芸「印伝」に 最新技術を注ぎ込む

鹿革の上に細かく彫られた型紙を乗せ、漆で模様をつける伝統工芸が「印伝」。文字どおりインド（印度）から伝来し、日本国内でも400年の歴史があります。この印伝のデザインと製作プロセスが変革期を迎えています。大正13年創業の老舗である有限会社印伝矢部の矢部恵延代表取締役と、城東支所の秋山正 副主任研究員に現況を聞きました。



有限会社印伝矢部
代表取締役
矢部 恵延 氏

鹿革と漆が醸し出す 唯一無二の風合い

印伝とは、16世紀に日本に伝えられ、以来400年以上にわたって技術が継承されてきた伝統工芸。戦国武将が鎧や兜に使用したほか、17世紀にはインドからの使者が江戸幕府に印伝の装飾品を献上したともいわれています。江戸期には武士の袴（かみしも）の柄に各藩のお抱えの彫師が特徴のある小紋柄を彫り、その藩だけに使用される「留柄（とめがら）」という多種多様な小紋柄が開発され普及しました。印伝は江戸時代以降にこれら江戸小紋の柄を鹿革に漆顔料で手捺染（てなせん）し、袋物や財布などの小物に縫製加工した製品です。大正13年創業の（有）印伝矢部では、100種類以上の型紙を保有しているといいます。

現在も印伝に使われるのは鹿革。中でも「キョン」という小さな鹿の革が通気性に優れ、肌触りも滑らかであり、強固に漆が付着することが特徴です。エゾシカの革が使われていた時期もありましたが、肌が粗く、漆には適さなかったといいます。

鹿革に均一に美しく漆を塗る作業には、熟練の技術が必要とされ、作業に適した気温や湿度を見極めながら、一点一点丹念に製作します。この鹿革のしっとりとした手

触りと漆の光沢が調和した風合いを楽しめる印伝が、いま変革期を迎えているのです。

伝統工芸への支持拡大は 現代カルチャーとの融合がカギ

印伝の代表的なデザインといえば、日本古来の江戸小紋柄や江戸更紗柄。しかし、これらは落ち着いた地味なデザインのためか若い世代の支持を集めにくく、現代風のデザインを施した印伝商品が増えつつあります。中には有名なキャラクターをあしらった商品も登場。伝統工芸と現代カルチャーの融合が進んでいるといえます。

昭和41年から半世紀以上にわたって印伝に携わり、平成11年に葛飾区伝統工芸士に認定された（有）印伝矢部の矢部氏も、昔ながらの模様に加えてトンボや桜、ペイズリーなど、新旧さまざまな柄を用いた商品化を推進。複数の模様をパッチワークでつなげた長財布やバッグは国内外で人気だといいます。

「当社は東京都中小企業振興公社が運営する『東京手仕事』プロジェクトに参画しており、イタリアで開催された展示会に出席したこともあります。そこで感じた確かな手応えが、次の一手を模索する原動力になっていますね」（矢部氏）



デザイン提案に使用した家紋

効率改善と人材不足対策に レーザー加工機を活用

都産技研では、城東支所の秋山正副主任研究員が印伝の可能性に着目。色使いや模様の新たな組み合わせによる印伝のデザイン提案などを積極的に行っています。

「世界的に絶大な人気を誇るラグジュアリーブランドで使用されている模様の中には、和柄の要素を見て取ることができます。であるならば、日本国内での支持層拡大は当然のこと、印伝が世界的なニーズを喚起することもできるはず。そこに大きな可能性を感じて、多角的な支援を展開しています」（秋山）

デザイン面では、日本古来の家紋を多色使いでデザインしたものや、誰もが親しみを感じやすい動物の柄などを提案。矢部氏と意見交換を行い、「もっと動きを出した方がいい」といったフィードバックを受けて再提案も行っています。

「印伝に使用される型紙は江戸時代に普及した小紋の柄で、家紋の柄は現在までほとんど使われていません。10,000種類以上ある家紋の中から、幾何学的でモダンに使える家紋を20種類選び、型紙用にデザインして製品提案しました」（秋山）



既存商品の特徵を振り返ることで次の商品づくりのヒントが得られることもある

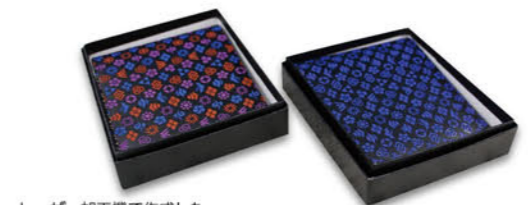
また、支援内容はデザイン提案にとどまることなく、最新機器を用いた型紙製作にもおよびます。伝統芸能と最新技術の融合です。

「型紙は、レーザー加工機を使えば短時間で作成可能です。彫師の継承者が減少の一途を辿る中で、まずは型紙制作の人手不足を技術でカバーできないかと考えました。都産技研のサービス分類でいえば技術相談と実地技術支援です。今後は皮革小物を扱う企業とのマッチング支援も推進していく考えです。印伝の技術を多方面に展開させるお手伝いです」（秋山）



城東支所のレーザー加工機

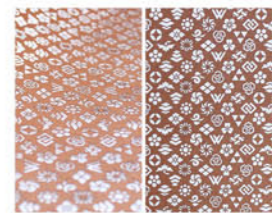
「現在、印伝の加工・製作を手がけているのは全国で6カ所しかありません。本場である山梨県の4事業者と、関東と関西に1事業者のみです。競合が少ない分、センスとアイデア次第で成長できるカテゴリーだと思います。都産技研からアドバイスをいただきながら、より多くの方に印伝の魅力を伝えていきたいと思っています」（矢部氏）



レーザー加工機で作成した型紙からつくられた財布（試作品）



彫師が昔ながらの方法で作成した型紙



レーザー加工機で作成した型紙



城東支所
副主任研究員
秋山 正

お問い合わせ

城東支所
TEL 03-5680-4632